

共に生きる

第 12 号

2010年12月

発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市市街地振興局工務課内
TEL 0748-65-0710
http://www.mci-zag.co.jp/kaka-jinkyoo/

フィールドワーク研修を実施

10月26日(火)、フィールドワーク研修を実施し、41名の参加をいただきました。

今回は、京都市の立命館大学国際平和ミュージアム、葛野大堰(かどのおおい)等を訪れ、「平和とは何か?」「国際交流のありかた」について学習しました。

人類は過去に二つの世界大戦を経験して、戦争が犯罪であることに気づき、平和な世界をつくる道をさがしはじめました。しかし残念なことに今も世界中で紛争や武力抗争が起こり、人間どうしが憎しみあい、命を奪いあっています。立命館大学国際平和



葛野大堰での研修



立命館大学国際平和ミュージアム展示室

ミュージアムでは、一人ひとりが過去の戦争の悲惨な事実を見て、感じて、考えて、お互いの人権を尊重しあえる平和な社会に向けた一歩をふみだすことの重要性を学びました。

また、葛野大堰は、今から1300年余前に朝鮮半島東部の新羅(しらぎ)系渡来氏族の秦(はた)氏によって桂川に築かれた治水・農業用水ダムで、これにより現在の京都市北西部は実り豊かな土地となり、平安京が遷都される礎となりました。いにしえの日本で、祖先たちが平和で安定した都をつくるために国のちがいを越えてつちかした協調、協力、共生の姿は、理想的な国際交流のありかたを参加者全員に語りかけているようでした。

平成22年度 人権標語募集

12月4日(土)~12月10日(金)は人権週間です。

企人協では、人権週間の取り組みとして「人権標語」の募集を12月28日まで実施しています。詳細については各企業・事業所に募集要綱を送付していますので「窓口担当者」にご確認ください。最優秀賞1点(副賞:商品券10,000円)、優秀賞11点(副賞:商品券5,000円)、また応募いただいた全員(入賞者除く)には参加賞を贈呈いたします。

皆様のご応募をお待ちしています。

経営者トップ研修

平成22年7月15日(木)



7月15日(木)、サンヒルズ甲賀で経営者トップ研修が開催され、甲賀市、湖南市から116社126名が参加されました。今年の講演の題材は「ワーク・ライフ・バランス」で、現代の企業経営に不可欠な「ひとづくり」と同様、長期にわたる機能的安定経営をはかるための最重要課題のひとつです。講師には、特定社会保険労務士の土井文子さんをお招きしました。言うまでもなく、企業にとって従業員は「宝」ですが、その人はまた、家庭や地域社会においても重要な役割を果たすべき「宝」でもあります。仕事のために家庭や地域社会をおろそかにしたり、家庭の負担が重すぎて仕事に集中できなくなったりしては企業にとってもマイナスイメージや損失となってしまいます。従業員が、

企人協人権フォーラム

平成22年8月25日(水)

8月25日(水)、忍の里プラザで「企人協人権フォーラム」が開催され、各企業で人権啓発推進に携わる窓口担当者の方々55名の参加をいただきました。

今回は、人権啓発の原点に立ち帰り、同和問題を基本として「私からはじまる人権」という演題で、大阪府人権協会・人権啓発部長 柴原浩嗣さんに講演いただき、グループごとの意見交流を行いました。

「差別についてどう思いますか?」という質問に対して「差別はいけない。私は差別はしない。」という答えが大多数を占めるようになりました。では、実態として差別は無くなったのでしょうか?土地の売買をめぐって同和地区であるかどうか調べるのは何故でしょうか?全国の同和地区をリストアップした名鑑が電子情報化されて流されているのは何故でしょうか?それを知ろうとしているのは私たちが暮らしている社会であり、それを許しているのは私たちの社会の無関心、無関係であるという消極的悪意です。

確かに、研修を繰り返し行ってきた結果、世間の人権に対する感覚は深く鋭くなりました。しかし、その中で忘れていたものがあることも明らかになってきました。研修によって自分自身が差別の行動を起こす力となることです。「私からはじまる」とは、私たちが人間として最も大切にしなければならない「人と人のつながり=人権」を本当に自分のものにするための、新たなキーワードとなるでしょう。今回のフォーラムで、参加者のみなさんはこうした意識の再発見をされたようです。



収穫の喜びをわかち合う

ちょっとのどいて見てごらん

~環境・農業・福祉のコラボで新しいビジネスを創り出す~

NPO法人「鹿深の杜」

厳しい経済状況が続いていますが、企業と社会の関係を原点から見直し、社会は今、何を待ち望んでいるのかを問いかけながら新しいビジネスを創り出そうとする動きも活発になってきました。

今回紹介する「鹿深の杜」もこのひとつで、甲賀市企人協の会員企業であるM社が自社の本来業務(総合リサイクル業)を行うなかで、「共に生きる社会」をめざす他の企業・事業所とタイアップすれば、それぞれの持ち味、強みを生かしながら、自分たちの垣根を越えた事業が展開できるのではないかと熱い思いを込めて立ち上げたNPO法人です。環境・農業・福祉…これらは、一見、まったく異なった仕事場に見えますが、人間が生きていくためには美しい環境が必要で、美しい環境が無ければ安全な食料は収穫できず、人間らしく一生を送るためには福祉(助け合い)がなければならない、という、人間尊重の精神が底に流れています。

「鹿深の杜」の主な事業は、①企業から出る生ごみを堆肥化し、人にやさしい農産物をつくり、イベントなどで地産地消する。②この活動を会員・会費をつくり組織的に運営し、環境エコロジーをより広く浸透させる。③これらの事業やイベントに必要な物品の一部(やきもの茶碗、エコキャンドルなど)を会員が福祉施設において協同で製作する…などです。

活動拠点となるエコロジー農園には、今、建築廃材をリサイクルしたログハウスが建築中です。「鹿深の杜」は会員の皆さんの夢を栄養源に、大きな「共生の花」を咲かせようとしています。